
ほんとうのころ

鈴蘭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほんとうのこころ

【Nコード】

N6235Z

【作者名】

鈴蘭

【あらすじ】

蘭と新一が喧嘩して…

喧嘩

「新一のばか…」

蘭は半泣きでいつもの帰り道を歩いていた。

新一と蘭が付き合って二カ月がすぎる。

いまだに喧嘩はあるようだが、蘭が泣くまでひどいことはなかった。それは、一時間ほど前のことだった。

「おい、ら・・・」

新一と蘭は違うクラス。

蘭はA組。新一はB組。

新一が彼女の蘭を呼びに行こうとした時、同じクラスにいた、新一と肩を並べるほどのイケメンで優しい男子と蘭が仲良く話していたのを新一は見てしまった。

その男子は蘭と話している時だけうれしそうに顔を赤くしているのだ。

「へえ・・・すごいね!」

「あ、そうだ、今度行こうよ!そのサーカス!日曜日にさ!」

「あ、日曜はだめ。新一と…」

「いいってそんなの！」

「でも…」

「いいからいい・・・か・・・ら・・・！！！！」

その男子がふと、ドアのほうを見ると、新一がものすごい剣幕で男子を見蘭でいた。

「あ、新一！」

「よう、蘭。何の話してたんだあ？」

何か意味ありげな顔をして蘭に聞く。

「なんか、サーカス行かないかなくて。」

「断ったんだろうな？」

「うん…」

蘭は何か不安げな顔をする。

「どうした？」

「空手が…」

「あ、もしかして、大会なんか？」

「うん…近いから、合宿しないかって。」

蘭は心配そうな悲しそうな顔をした。

新一が起こるであろっ、そう思っただ。

「なんだ、そうだったのか。実は、俺も用事があっただ。」

「え…？」

「工藤君！」

「あ、山城。」

山城優未が蘭の目の前に現れた。優実は、ツインテールで美少女である。

「山城さん…。」

「工藤君、日曜のこと、忘れないでよ！？なっただ、あれは…」

「シッ！」

新一が急いで優実の口をふさぐ。蘭はそれを不審に思った。

「新一…山城さんと行くんだ。ふうん…デート？」

「あ、違うって…。」

「そうよね、なんなら、別れようよ。私なんかより、山城さんのほうがいいんじゃない？」

蘭はうつむきながら言った。

新一はあわてていたがどうしようもできなかった。

「蘭…違うって…！」

「新一のばかぁッ！！」

新一なんか…新一なんか…大嫌い！！！！！！！！！！」

蘭はそういふなり、走って学校を出て行ってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6235z/>

ほんとうのころ

2011年12月20日21時54分発行